

エリンギョイ 園芸

野菜

鮫島 國親

一度植えると数年間収穫が楽しめる多年生の緑黄色野菜です。独特の風味があり、ビタミンA・B₂等を豊富に含み、肉や魚の臭みを消す働きを持っていることから、レバニッコいためやギョーザの具などに広く利用されています。庭先やプランターで手軽に作れ、株分けもできます。近年は専作的な周年栽培も行われています。今回は高品質が期待できる夏どりの雨よけ栽培を紹介します。

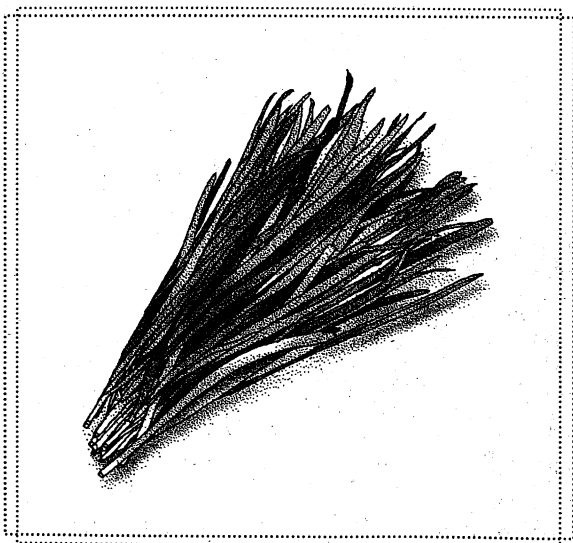
発芽適温、生育適温ともに20度で、5度以下では生育を停止します。連作障害は出にくく、土壌の乾燥に強いですが、過湿に弱

ニ ラ

く、酸性土壌を嫌います。夏に白い花が咲き、晩秋から初冬に生育が止まり、春再び生育を開始します。春にまくと翌年から、秋にまくと翌々年から収穫できます。

春まきでは地温を高めるためハウスやトンネル内で苗床育苗もしくはセル成型苗育苗(四四八穴トレイ、一穴三粒)を行います。苗床には種まきの十日前に一平方分当たり苦土石灰百五十粒、堆肥四割、化学肥料百粒(三要素15%の場合)を目安として施します。床幅は一畝とし、十時間隔にすじまきします。種まき後かん水、マルチ

雨よけで高品質期待



を行い、発芽後除去します。育苗中は五〜三〇度で管理し、週一回程度かん水します。早めに株間二センチに間引き、本葉一枚展開後追肥(一回)を行います。本ほには基肥として苗床と同程度の肥料を施し、九月以降十日おきに三回化学肥料を追肥(二十粒/一回)します。

育苗日数は苗床育苗の場合で九十日(草丈二十五

センチ)、セル成型苗育苗で五十日(草丈十五センチ)くらいです。本ほの栽植密度は雨よけ施設の大きさに合わせますが、うね幅一畝(床幅百五十センチ)、株間二十五センチ、四条(条間四十センチ)で一穴五〜六本植えを目安とします。花茎は開花前に切り取ります。約一年間の株養成後、翌年の四月ごろ雨よけ刈り揃えを行い、新たに伸びてきた莖葉を五月ごろ草丈三十五センチで収穫します。収穫後追肥(二十粒)かん水を行い、その後再び伸びてくる莖葉を順次収穫します。

(鹿児島県農業開発総合センター副所長)



くらし 悠遊優